

図書館ニュース



「便利になって失うもの」

学長 瀧上 凱令

科学技術の発達は私たちに計り知れない恩恵をもたらしています。しかし、進歩の裏にはデメリットがついていくことがしばしばあります。「あちらを立てればこちらが立たず」とか「二律背反」などといわれますが、最近では、「トレードオフ」という用語がよく使われるようになりました。この言葉は、もともとは経済用語でしたが、最近では経済の分野を超えて使われています。たとえば、交通機関や家庭用電化製品の発達で私たちの生活は快適になりましたが、一方で運動不足というデメリットを抱え、生活習慣病の原因となったりしています。こんな時にもトレードオフという言葉が使われるようになりました。情報技術の発達にも同じようなことがあります。

コピー技術の発達は世の中に大きなメリットをもたらしました。今や学校や企業などでコピー機械が置いてないところはないのではないのでしょうか。コピー機械の発達は勉強の仕方にも影響を与えました。私の専門は心理学ですから外国雑誌の論文を読むというのが重要になります。必要な論文や面白そうな論文を見つけるとコピーします。家に持って帰って読むことができるのでたいへん便利になりました。その上、他大学の図書館からコピーを取り寄せていただくということすら簡単にできるようになりました。ところが、問題は、読まないうちにコピーがどんどんたまってしまうということです。コピー機械が普及する以前の先輩たちは、図書館や雑誌の置いてある資料室に行って、論文を探し、それを読んで、要約ノートや要約カードを作っていたようです。通常、新着雑誌や製本雑誌は貸出禁止ですから、図書館や資料室で読むしか方法がありません。時間がかかるし面倒ですが、この方がどうも勉強になったのではないかと思います。もちろん、コピーをしてもそれ

をちゃんと読めば問題はありません。しかし、コピーをすると、いつでも読めるという安心感からか、結局読まないでため込んでしまうということがしばしばありました。

近年はコンピュータの発達が勉強の仕方や図書館の利用に大きな影響を与えています。学生がレポートを書くとき、ほとんどのことはインターネットで調べられます。さまざまなテーマのレポートのモデルといったものさえあります。図書館に行かなくてもちょっとしたレポートは書けるようになってしまいました。しかし、便利になったことは学生の勉強に役立っているのでしょうか。インターネットの情報は、端末さえあればいつでも調べられるという大きなメリットがあります。そのため、頭の中に入れておかなくても、必要になったときに調べれば良いという気持ちを起こさせます。ちゃんとした本を読むといった「面倒なこと」がおろそかになってしまいます。ところが頭の中に入っていない知識には問題があります。頭の中にある知識や考え方というのは頭にしまった時のままずっと同じであるわけではありません。その後の経験や新しく取り入れた知識によって絶えず変化し、再構成されていきます。インターネット上の情報も絶えず新しくなっていますが、それはコンピュータの中でのことです。頭の中に入って生きている知識や考え方こそが判断や生き方に役立ちます。

コンピュータの発達は私たちの生活に大きなメリットをもたらしましたが、便利になることによって失うものがあります。情報をいつでも利用できる時代だからこそ、本を読むといった「面倒なこと」をすることによって、自分の知識や考え方を作り、インターネット上にあふれている断片的な情報をまとめる力や間違った情報の正誤を判断する力を身に付ける必要があるのではないのでしょうか。

『継体天皇の即位と大伴金村大連』

平林 章仁氏(龍谷大学教授)

五世紀末のヤマト王権の内部混乱

五世紀後半の21代雄略天皇の世は、『万葉集』巻一の巻頭歌、平安時代初頭の説話集『日本霊異記』最初の物語などから、時代の画期とする意識が存在したとされた。

それを受けて、雄略天皇が多くの競争相手を実力で倒して即位したと伝えられること、雄略天皇＝倭王武が昇明2年(478)に中国南朝・宋に提出した上表文に武力で領域を拡大したとあること、埼玉県稲荷山古墳出土の鉄剣や熊本県江田船山古墳出土の大刀に、「獲加多支鹵大王」＝雄略天皇の時に杖刀人・典曹人の官制が示されることから、王権専制化の画期とみられてきた。

しかし雄略朝には、王家の姻族・執政官として5世紀のヤマト王権を主導した葛城氏が衰亡、倭国と連携関係にあった百済が高句麗に攻められて一時的に滅亡、中国南朝への遣使も478年で途絶するなど、王権の存立が大きく揺らいでいた。

そのあとを継いだ22代清寧天皇には皇后・御子が無く、王位断絶の危機に陥った。その後、播磨に難を避けて逃亡中の王族が迎えられ、23代額宗・24代仁賢天皇として即位した。仁賢天皇のあとを継いだ25代武烈天皇にも、子がなく再び王統断絶の危機に陥ったという。

継体天皇の即位の歴史的背景と大伴金村大連

その危機に、15代応神天皇の五世孫という男大迹王(袁本杼命)が越前もしくは近江から迎えられ、継体天皇として即位する。

7世紀末までを見渡して、二世王(14代仲哀天皇・額宗天皇・仁賢天皇・34代舒明天皇)や三世王(35代皇極天皇、重祚して37代斉明天皇・36代孝徳天皇)が即位した例はあるが、畿外に本拠を有する五世王の即位は、それ以降を含めても絶無である。畿外から迎えられた応神天皇五世孫という男大迹王の即位が、前後の例を破る特異なものであったことは間違いなく、王権は危機的状況にあった。

男大迹王に即位を要請したのは、王権の群臣(マエツキミ、有力成員)会議を主催した大連(王権の最高執政官)の大伴金村であった。時の次席は、大連の物部麁鹿火と大臣の許勢男人であった。

男大迹王が新たな王者として要請された際、受諾にあたり何らの条件をも示さなかったとは考えられない。反対に、王権の側も新たな王者を無条件で受け入れたとは思われない。仁賢天皇の娘の手白香皇女(継体天皇太后)・春日山田皇女(安閑天皇太后)・橘仲皇女(宣化天皇太后)3名の新王・王族への入内は、その一つであった。新王側が示した条件とは、5世紀の天皇後裔王族の王位継承権の否定、5世紀の天皇の無嗣の確定であった。



『孝謙女帝と藤原仲麻呂』

～光明皇太后の存在～

木本 好信(本学特任教授)

天平勝宝元年(749)7月、聖武天皇の譲位をうけて娘の阿倍皇太子が即位して孝謙天皇となった。これにともなって新皇太子を立てる必要が生じたが、諸王の擁立をめぐる対立を深めつつあった公卿らの動向が政争につながる危機をはらんでいたことから聖武といえども決定することができなかった。しかし、没後には政争の要因となる皇位継承問題を放置したままにすることはできず、同8歳5月に聖武は遺言として同じ藤原氏の血をひく天武皇孫で新田部親王々子の道祖王を皇太子に指名して没した。けれども有力な支持勢力をもたない道祖王は、翌同9歳(天平宝字元・757)3月には早くも廃太子され、4月になって孝謙から新皇太子に誰が良いかが公卿たちに諮られた。藤原豊成・永手らは藤原氏を代表して道祖王の兄塩焼王を、文室珍努・大伴古麻呂らはやはり天武皇孫で舍人親王々子の池田王を薦めたが、これ以外にも池田王の弟の船王や天武皇孫である長屋王の遺子安宿王・黄文王なども候補にあがって紛糾した。

ところが、この頃に発言力をましつつあった豊成の弟、仲麻呂は「天意」によるのみとあえて推薦しなかったが、これはすでに孝謙をはじめ、光明皇太后と謀って池田王・船王の弟である大炊王を擁立することで話がまとまっていたからであろう。果たして大炊王が「過愚を聞かず」という理由で新皇太子に立てられた。この大炊王の立太子を主導したのが誰であるかについては、従来から見解がわかれる。仲麻呂が大炊王に早逝した長男の寡婦である粟田諸姉を妻せていたことから、すべてが仲麻呂の仕業であって孝謙や光明も仲麻呂の野望を見抜いてはいなかったとか、孝謙と仲麻呂によるものとの説もある。そして光明については、その関わりが疑問視されている。けれども『続日本紀』天平宝字2年8月庚子(1日)条には、「皇太后、(中略)遂に乃ち欽みて顧命を承りて皇儲を議り定む」とあり、また即位した大炊王(淳仁天皇)が光明から「聖武の子として皇太子に決めて皇位に即けた」といわれたとのが『続日本紀』にみえていることからすると、大炊王立太子を主導したのは光明に間違いはない。

聖武の没後には、天皇が保持すべき御璽が光明の手許であったことが『続日本紀』同元年7月庚戌(4日)条に、光明が天皇のみが行いうる「詔」を渙発したことが同月戊申(2日)・己酉(3日)両条にみえていることからしても、この頃の政治は天皇である孝謙ではなく、母后である光明が領導していたことは明らかである。このことからして光明が新皇太子を決定したのは当然であったといえる。

これらのことで注視しなければならないことは、大炊王が孝謙の皇太子ではなく聖武の皇太子とされていたことであり、孝謙に代わって光明が皇権をふるっていたことである。この事実を併考すると、「本格的な女帝」とされる孝謙の実像は、従来からの理解とは異なり、実は重祚した称徳女帝のイメージとは違って、「中継的」な存在であったと推考できるのである。

『一条天皇と藤原道長』

上島 享氏(京都大学大学院教授)

『古事談』巻一では、一条天皇が名君たることを示す話と、一条天皇と藤原道長の微妙な関係を暗示する逸話を収録している。史実より、一条天皇と藤原道長の略歴および両者の関係を簡単に確認し、一条天皇は、当時の貴族から「好文賢皇」と認識されていたことを明らかにした。また、一条天皇の時代は藤原道長政権の初期段階といえ、道長の権力形成を考える上で最も注目すべきは、道長が寛仁2年(1018)に太政大臣を辞してから、62歳で没するまでの約10年間だとした。朝廷の官職を退き、天皇の臣下たる立場から離脱した道長は、天皇の存在を前提にしつつも、天皇とは異なる独自の権力の創出に邁進する。つまり、道長は約30年にわたり政権を担当することにより得た現実の権力を、自邸や寺院の造営事業を通じて、制度化・構造化して、新たな権力を生み出していくのである。このような権力形態はのちの院権に継承されたとすることができ、ここに藤原道長の歴史上の意義があると考えられる。晩年に完成するかかる道長の権力を予見していたかのように記すのが『古事談』の逸話といつてよい。

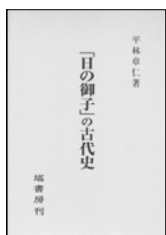
講師紹介

1講「継体天皇と伴金村大連」

龍谷大学教授 平林章仁

専攻分野：大化前代史

著書：『日の御子の古代史』など



第2講「孝謙女帝と藤原仲麻呂」

本学特任教授 木本好信

専攻分野：奈良時代史

著書：『藤原仲麻呂』など



第3講「一条天皇と藤原道長」

京都大学大学院教授 上島 享

専攻分野：平安・鎌倉時代史

著書：『日本中世社会の形成と王権』など



第4講「後白河天皇と平清盛」

古代学協会研究員 古藤真平

専攻分野：平安時代史

著書：『紀伝道研究史料集』

『後白河天皇と平清盛』

古藤 真平氏(古代学協会研究員)

後白河天皇は鳥羽上皇の皇子雅仁親王として誕生した(母は待賢門院藤原璋子)。白河院政下では崇徳天皇(同母兄)、鳥羽院政下では崇徳天皇・近衛天皇(母は鳥羽上皇后藤原得子。後の美福門院)が在位し、皇位は遠かったが、久寿2年(1155)に近衛天皇が崩御したため、29歳で即位した。親王自身はその遊芸好みの性格から皇位適格性に疑問視すら受けた(今様集『梁塵秘抄』を今日に遺す)が、その子守仁(美福門院が養育。後の二条天皇)を将来即位させることが目論まれていたらしい。翌年に鳥羽上皇が崩御すると保元の乱が勃発する。後白河天皇方の源義朝・平清盛等の軍勢が崇徳上皇の白河北殿を攻略して戦闘は決着する。これが天皇と清盛とが重要な政局で立場を共にした最初であった。

平清盛は、承平・天慶の乱で平将門を討った貞盛の子維衡以来、伊勢を本拠とした一族の子孫である。祖父正盛が白河上皇に院北面として仕えて以降、朝廷の軍事を担う武門氏族として台頭していたが、公卿への昇進を果たしたのは平治の乱後の清盛が最初であった。

保元の乱後、後白河親政を主導したのは信西(俗名藤原通憲)だったが、天皇の新たな寵臣藤原信頼が台頭する。平治元年(1159)、信頼・源義朝が清盛不在の間を突き、信西を斬首するが、内裏に幽閉されていた二条天皇・後白河上皇が脱出すると、反乱は清盛によって鎮圧される。乱後、上皇と天皇の対立が強まり、後白河院政は停止状態に陥るが、永万元年(1165)に天皇が譲位・崩御して院政が復活する。幼帝六条天皇(二条天皇の子)には後ろ盾がなく、上皇と平滋子(清盛の妻時子の異母妹。後の建春門院)の間に生まれた憲仁親王(後の高倉天皇)の立太子・即位の方向性が固まると、上皇と清盛の関係は密着化し、清盛の娘徳子が高倉天皇に入内し、安徳天皇が誕生する路線へと進む。しかし、院近臣と延暦寺の紛争を契機として、両者の関係は破綻する。治承4年(1180)、清盛は安徳天皇を即位させ、高倉院政に移行させるが、以仁王の挙兵を導火線とする治承・寿永の内乱が勃発、翌年高倉上皇が崩御し、後白河院政の再開を容認し、自らも没したのである。

後白河上皇の院政が朝廷政治・貴族社会に対して専制政治だったと評価することは可能だが、白河・鳥羽院政で両上皇が振るった権力と比べて弱体であったことは否めない。清盛一門が平氏政権を樹立する過程と表裏の関係にあったことは言うまでもないであろう。



随 想 「須賀敦子に魅せられて」……………坂本 正子(特任教授)

作家・須賀敦子の作品は、没後18年となる今も多くの人に親しまれ、評論の対象にもなっている。須賀さんは阪神間で生まれ幼少期を過ごしたことから、つい先日も近くの市民ホールで人と作品を偲ぶサロンが開かれた。

1998年の秋、ミラノ。わたしは海外研修の機会を得て、イタリア北部の生活協同組合が運営する高齢者デイサービス施設を視察した時、数日間滞在した。しばらくしてから須賀さんの最初のエッセイ『ミラノ 霧の風景』を読み、その作品に強く惹かれた。しかし、須賀さんはその年の春に亡くなっており、かつて、ミラノの中心にあるドゥモの横にあった書店に勤めていたこと、石畳を走る市電で通勤していたことなどを知った。もう少し前に読んでいたら、街の色や匂いをもっと貪欲に受け止めたかもしれないと、残念に思った。

それからいくつかのエッセイを一気に読んだ。どの作品にも凜とした雰囲気を感じた。家族・友人・仕事仲間への静かで温かいまなざしを感じた。とても厳しい人であったそうだが、作品はさり気なく優しい。異国の人、貧しい人、

頑固な人の生き方をしっかり見つめ、丁寧に描く姿勢に共感をおぼえる。

なかでも幾度も読み返しているのは、早逝した夫の母親の小さな菜園での会話、フランス留学時代に寄宿舎で同室だった女性との再会、詩人ウンベルト・サバの故郷トリエステの街が描かれたものである。

また、『ユルスナールの靴』の冒頭に書かれた“きっちり足にあった靴さえあれば、自分はどこまでも歩いていけるはずだ。”というフレーズとサバの訳詩『ミラノ』の最後のところはとても気に入っている。

石と霧のあいだで、ぼくは休暇を愉しむ。

大聖堂の広場に来てほっとする。

星のかわりに夜ごと、ことばに灯がともる。

人生ほど、

生きる疲れを癒してくれるものは、ない。



自著を語る 「奈良平安時代の人びとの諸相」……………木本 好信(図書館長)

古代史研究者の著書だけではないだろうが、その内容には①書き下ろしたものの、②既発表のいくつかの研究論文を章節に構成した論文集、そして③論文集が長文集であるとすれば短編集的な研究ノートや覚書などを集成したものもあると思う。もちろん、これ以外にも未刊史料の影印や翻刻、これに解説や語釈・索引を加えた編書といつてよいようなものもある。今回、「自著を語る」で紹介させていただくのは③にあたる。つまり①の前号で紹介させていただいた『藤原種継』、そして『藤原仲麻呂』(平成23年)・『藤原四子』(平成25年)など、②の『奈良時代の政争と皇位継承』(平成24年)・『藤原北家・京家官人の考察』(平成27年)などに収載しなかった、奈良時代に関する10本と平安時代に関する7本の併せて17本の小論から構成している。

本書は政治史・文化史を中心とする内容であるが、その主体としている対象は人物である。第1章「奈良時代の人びとの諸相」では、聖武天皇や光明皇后、長屋王・藤原麻呂・藤原仲麻呂・鑑真など、そして第2章「平安時代の人びとの諸相」では、藤原道長・藤原師通などの摂関や学儒公卿である大江匡房、摂関家の家司として実務に熟達した公卿である藤原季仲・藤原朝隆などに焦点をあわせて考察している。

この17節は小論ではあるが、たとえば長屋王の生年が天武天皇13年(684)という通説を否定し、いまでは通説

化しつつある同5年説の嚆矢となった第1章第2節「長屋王の変」、独身の元正女帝即位への反対派公卿の蠢動や太政官組織の崩壊による政治不安を打開するために、四男である麻呂を美濃国に派遣して美泉発見の大瑞を捏造、「養老」と改元することによって新しい太政官を構成して政権を確立した藤原不比等の陰謀を解明した第4節「藤原麻呂の美濃介補任意図」、従来から近江国は鎌足以来の藤原氏の基盤国とされてきたが、実はそうではなく鎌足の曾孫である仲麻呂が実効支配するための喧伝に基づくものであったことを実証する第8節の「藤原仲麻呂と近江国」など多くの新説を提示している。

そして第2章「平安時代の人びとの諸相」では、平安王朝の象徴的公卿として知られる藤原道長が、長女彰子出家に際して動揺して面前で涕泣する、息子顕信の突然の受戒に狼狽するという、最高の権力者道長でもただの一人の父親に過ぎなかったということ、関白藤原頼通と能信という異母兄弟の確執が藤原摂関家衰亡の遠因となったことなど、「奈良平安時代の人びと」の生きざまについて追究し、そして論述している。

- ・「奈良平安時代の人びとの諸相」
- ・木本 好信：著
- ・おうふう：発行
- ・2,300円(定価)



随 想 「アクティブラーニングって」…………… 保田 洋(助教)

私は、前職でアクティブラーニング(以下、「AL」と略称)の推進として教員に対してALの研修を行っていました。最近、教育の現場でよく耳にすることが多くなった言葉のALについて述べたいと思います。

そもそもALとは何か、その定義はさまざま言われていますが、簡単に言うと「能動的な学び」のことを指します。学生が主体として学び、知識を構成し、また協働的に活動し、その学んだことをその後の活動で活かし、そして学び続けることです。

では何故、今ALが必要になってきているのかと言うと、企業や若者を取り巻く環境変化により、常に自身が生きていくためには、社会に出てからも学び続けなければいけない状況になっており、「基礎学力」「専門知識」に加え、それをうまく活用していくための「社会人基礎力(「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」3つの能力(12の能力要素))」を意識的に育成していくことが今まで以上に重要と経済産業省が2006年から提唱しているからです。

以前であれば、ただ教員は学生に自身の専門分野である学問を教えていれば良かったのですが、先ほど述べた社会人基礎力の育成をするためには、学んだ学問を使ってみるという実践能力の部分まで教えないといけない状況になっています。そのため、従来の講義型の授業からALの具体的な手法を使って能動的な学習を行っていく必要があります。授業への簡単なALの取入れは、いきなり今までやっている講義型の授業を変えるのではなく、授業の最後に10分ほど時間を使って1つの問に対し、先ずは個人で考えさせ、次にグ

ループでの意見を出し合い、グループの意見を全体で共有することができるThink-Pair-Shareというグループ技法を使うことで、より深く学ばせることが簡単に導入できます。

最近ではALに関する書籍も沢山ありますし、能動的学習を取り入れやすい教材などもWeb上で公開され無償で貸出も行われています。また、大学の教育開発センターなどでも、具体的なAL手法や、能動的な学習を促すために活用できるICT機器や具体的な活用方法も紹介されています。ふと授業内容を見直してみても、少し、ALの手法を取り入れてみてはいかがでしょうか？

- ◆教育コンテンツ相互利用システム
<http://sougo.juce.jp/index.html>
- ◆Find! アクティブ・ラーニング
<http://find-activelearning.com/>
- ◆キャリア教育プログラム開発推進コンソーシアム
<http://www.career-program.ne.jp/>
- ◆2030年の「働く」を考える
<http://www.recruit-ms.co.jp/research/2030/introduction/>

参考：大学の教育開発センターで特にコンテンツが豊富な大学のURLです。

- ◆大阪大学 全学教育推進機構 教育学習支援部
<http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/>
- ◆KU:TO 熊本大学ティーチングオンライン
<http://kuto.kumamoto-u.ac.jp/>
- ◆同志社大学 学習支援・教育開発センター
<http://clf.doshisha.ac.jp/>
- ◆龍谷大学 学修支援・教育開発センター
<http://fd.ryukoku.ac.jp/>

推薦図書 「困ってるひと」…………… 原 千明(助教)

これは、福島県の田舎町から都会にあこがれ東京の大学に進学した女の子が、突如発病した原因不明の難病と格闘するお話です。書店の棚では「闘病記」のジャンルに分類されるのかもしれませんが、薬品のニオイや病院のジメジメ感はありません。闘病ライフをユーモアあふれるタッチで描いたエッセイです。彼女の明るさに、不謹慎ですが思わずくすっと笑ってしまいます。

彼女は大学在学中にミャンマーのビルマ難民問題と出会い、民主化運動や人権問題に関心を抱いて大学院に進み、NPOでの活動に没頭していました。そんなビルマ通いをする25歳の彼女に、ある日病魔が襲います。「筋膜炎脂肪織炎症候群」、さんざん病院をたらいまわしにされたあげく付いた病名です。珍しすぎて、肩書がいくつもあつた有名なドクターでも口を揃えて「よくわからない」という難病です。彼女の研究は「難民」ですが、今度は彼女自身が「困ってるひと」=「難民」になってしまいました。病名が分かり、病気に向き合ってくれる医師に出会えてからも、診療報酬の都合で強制退院させられたり、麻酔なしで手術されたり、おしりに大きな穴が開いたり(!)、とにかく彼女の身には信じられないことが次から次に起こります。しかし、おとなしくやられてばかりではありません。医者

とのバトル、ひみつの院内デートなど、メチャクチャなこともたくさんします。けれども、信頼していた医師からの心無い言葉や周囲からの孤立により、完全に心が折れてしまったこともありました。それでも前を向いて生きていくと決め、ようやく9か月に及んだ入院生活を脱出し、ズンズンと前に進んでいくのです。

大野さんは「ひとりの人間が、たった1日を生きることが、これほど大変なことか!それでも、いま、『絶望は、しない』と決めたわたしがいる。」と言います。どんな人でも日々を生きていくのはそれなりに大変で、何かに「困って」います。この本は、そんな日常を生き抜いていくエネルギーを与えてくれます。「私が頑張らなくてどうするんだ!」という気持ちになります。何かに困っている人、「生きるの、たいへんだな」なんて感じている人、ぜひ読んで下さい。



- ・「困ってるひと」
- ・大野 更紗：著
- ・ポプラ社：発行
- ・1,400円(定価)

読書感想文優秀作

『窓ぎわのトットちゃん』

(黒柳徹子 著／講談社)

幼児教育保育学科Ⅰ回生1組 山田 功子

私はこの本を読んで、幼児教育の保育者として学ぶべき点が多々ありました。実はこの本を読むのは2回目、出会いは初版の折でした。優しい可愛い挿し絵に思わず手に取っていました。内容も楽しくて読みやすく、トットちゃんとお話しながら読んだ記憶があります。そして改めて保育者という立場で読書すると大切な教えが散りばめられていました。

まず第一にあげられるのは、トモ工学園小林先生が独自で作られた歌の数々です。食事の前に唱える歌は、「よく、噛めよ、食べ物を、噛めよ、噛めよ、噛めよ、噛めよ、噛めよ、食べ物を」、校歌も「トモ工、トモ工、トモ工、トモ工」。歌詞と音符がわかりやすく、子どもから大人まで歌いやすくなっています。トットちゃんが大人になり思ひ出し、口遊む歌が魅力的で独創的でした。

トモ工学園の子どもは、小児麻痺の泰蔵君、英語の好きなゆき子ちゃん、物知り博士のたかし君、身体の小さなトットちゃん…。一人ひとり個性・特性をもっています。

小林先生は、そんな子どもたちの個性・特性を生き生きと輝かせながら一緒に楽しく過ごしている様子が感じ取れます。たとえば、昼食のお弁当箱を一人ひとりのぞきこみ語ります。「山のものは何かな。海のものは何かな」。トモ工学園の栄養の摂り方です。たとえば、おにぎりは、ご飯にのりを巻いて海のもの、卵焼きは海でとれるものでなく山でとれるニワトリの卵、海でとれる魚など。小林先生の問いかけに子どもたちも考え、食物には山でとれるもの、海でとれるものそれぞれ違うという事を知っていく、解っていく、美味しい嬉しい時間に考え学ぶ教育があります。

次に、私たちが今学んでいる音楽表現のリトミックです。リトミックは、リズム表現による音楽教育方法で、身体でリズムを学ぶ事によって精神と肉体との一致調和、自発性と反射性、精神の集中力と記憶力、創造力などが養成されます。特に児童教育に用いられ、大正時代に山田耕筰氏や小林宗作氏、板野平氏らによって普及しました。(ブリタニカ国際大百科事典より参照)。

今では一般的な教育ですが、その当時に逸早く音楽表現



を通して、子どもたちの心身の発達に欠かせないとの思いで取り入れられました。

教育とは、子どものそれぞれ違う個性・特性、長所をいかに引き出し伸ばしていけるか、またそれに伴い環境をどう整備し、提供していくかだと思います。それに加え、子どもへの少しのアドバイスを必要に応じ、手助けできるかどうかだと常々考えています。また人との出会いが将来大きな影響を与えます。トットちゃんは、トモ工学園で、小林先生はじめ友人たちと出会い、多くの事を学んだと思います。他校では、否定的で攻撃的な一面しか映らなかった子どもは、トモ工学園に来て初めて肯定的に受け入れられて自分らしく伸び伸びと成長していききました。

小林先生が、トットちゃんの話をして2時間聞いて「君はほんとはいい子なんだよ」と。トットちゃんは、「私はいい子」とずっと思います。言葉は言葉といひます。子どもへの言葉かけ、声かけは大事です。子どもの心に響く言葉を発したいものです。

そして小林先生のように、子どもの心に寄り添う保育者になっていきたいと強く感じました。

評 リトミック教育とシュタイナー教育の共通性や、個性・特性・長所を引き出し伸ばすことを、社会生活での適応と結びつけるにはどうした良いのか。頑張って研究して下さい。

～教育者「小林宗作(金子宗作)」について～

※長姉の養子となり「金子宗作」が本名だが「小林宗作」の名前を用いていた。
 明治26(1893)年 群馬県吾妻郡元岩島村の農家に誕生。5人兄弟の末子(三男)。
 明治40(1907)年 高等小学校卒業後、小学校の代用教員となる。
 大正5(1916)年 東京音楽学校(現東京芸術大学音楽学部)乙種師範科入学。
 大正9(1920)年 成蹊小学校に勤務。音楽指導について検討を重ねる。
 大正12(1923)年 ヨーロッパ留学。ダルクローズ音楽学院でリトミックを学ぶ。
 大正14(1925)年 帰国後、成城幼稚園設立に関わり、リトミックを実践。
 昭和12(1937)年 トモ工幼稚園・トモ工学園(小学校)設立。
 昭和20(1945)年 空襲によりトモ工学園消失。(翌年、小学校は廃校)
 昭和24(1949)年 国立中学校・国立音楽高校にてリトミック指導者として勤務。
 国立音楽大学教育音楽学科講師、附属幼稚園園長などを歴任。
 昭和38(1963)年 死去。
 (参考文献:宮城学院女子大学発達科学研究2013.13
 松本晴子「教育者としての小林宗作の成長の過程-5人との出会いをとおして」)

読書感想文・課題図書より

この目録は、Ⅰ回生対象の平成28年度読書感想文・課題図書の一部です。Ⅱ回生にも読んでもらいたい本が推薦されていますのでご紹介します。

書名	著者名	発行所	分類番号
こころの処方箋	河合 隼雄	新潮社	159
置かれた場所で咲きなさい	渡辺 和子	幻冬舎	198.24
一生一途に -94歳正造じいちゃんの戦争体験記と57年間のまんが絵日記	竹浪 正造	廣済堂出版	289.1
講談社現代新書 わかりあえないことから -コミュニケーション能力とは何か	平田 オリザ	講談社	361.45
講談社+α文庫 「老いる」とはどういうことか	河合 隼雄	講談社	367.7
集英社新書 発達障害の子どもの理解する	小西 行郎	集英社	378
食に生きて 私が大切に思うこと	辰巳 芳子	新潮社	596

書名	著者名	発行所	分類番号
からすたろう	八島 太郎	偕成社	726.5
100万回生きたねこ	佐野 洋子	講談社	726.5
アンのゆりかご 村岡花子の生涯(新潮文庫)	村岡 恵理	新潮社	910.268
満月の夜、母を施設に置いて	藤川 幸之助	中央法規出版	911.56
新潮文庫 西の魔女が死んだ	梨木 香歩	新潮社	913.6
新潮文庫 博士の愛した数式	小川 洋子	新潮社	913.6
夢をかなえるゾウ 文庫版1	水野 敬也	飛鳥新社	913.6
許す力 -大人の流儀(4)	伊集院 静	講談社	914.6
新潮文庫 赤毛のアン	L.M.モンゴメリ 村岡 花子 訳	新潮社	933

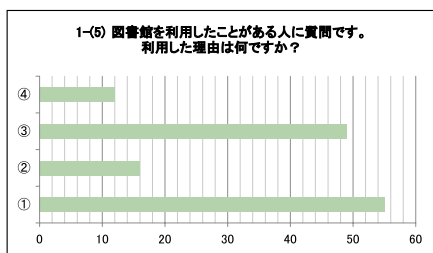
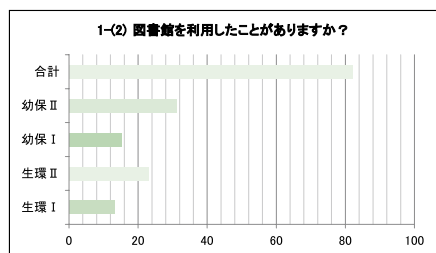
新着図書紹介目録

この目録は、平成28年4月から9月にかけて図書館で購入したDVD図書149冊のうち、各学科の先生方がぜひ皆さんに読んでほしいと推薦された図書の一覧です。分類番号の見方は、館内掲示の「本の探し方」を参照してください。

書名	著者名	発行所	分類番号	書名	著者名	発行所	分類番号
基本を学ぶ楽しい食事のマナー 和食のマナー編	<DVD>	教育図書株式会社	596.8	キング スーパー・マーチ ヒット・パレード2016 ～365日の紙飛行機～	<CD>	キングレコード	767.8
新保育所保育指針実践DVD 「保育所保育指針を映像に！」 全2巻セット	<DVD>	岩波映像株式会社	376.15	幼稚園・保育園で うたう歌 ベスト	<CD>	キングレコード	760.7
日本の大課題 子どもの貧困 社会的養護の現場 から考える(ちくま新書)	池上 彰 編	筑摩書房	369.4	好印象で面接に勝つ！ 就活メイク講座	寿 マリコ	ミネルヴァ書房	377.9
保育者・教師に役立つ 子ども虐待対応実践ガイド	保育・学校現場で の虐待対応研究会 編著	東洋館出版社	369.4	ホンネの女子就活 センパイたちが就活中に悩んだこと 2017年度版	女子就活ネット 編	実務教育出版	377.9
あらゆる学問は保育につながる ：発達保育実践政策学の挑戦	秋田 喜代美 監修	東京大学出版会	376.1	「見た目が9割」内定術	竹内 一郎	産経新聞出版	377.9
遊びを中心とした保育 保育記録から読み解く「援助」と「展開」	河邊 貴子	萌文書林	376.1	日本人の一年と一生 変わりゆく日本人の心性	石井 研士	春秋社	386.1
集団遊びの発達心理学	田中 浩司	北大路書房	376.11	看護師・介護士が知りたい 高齢者の解剖生理学 気持ちに寄り添う仕事をするための実 践知識	野溝 明子	秀和システム	493.18
社会情動的スキルを育む 「保育内容人間関係」 実践事例から学ぶ保育内容 乳幼児期 から小学校へつなぐ非認知能力とは	無藤 隆 古賀 松香 編著	北大路書房	376.15	ケアマネ必携！ 医学知識ハンドブック 高齢者の病気をくすり これだけは押さ えておきたい疾患のポイントをやさしく解説	苛原 実	中央法規出版	493.185
ごっこ遊びの探究 生活保育の創造をめざして 新装版	八木 紘一郎 編著	新読書社	376.157	おやすみ、ロジャー 魔法のぐっすり絵本	カール＝ヨハン・ エリー	飛鳥新社	726.5

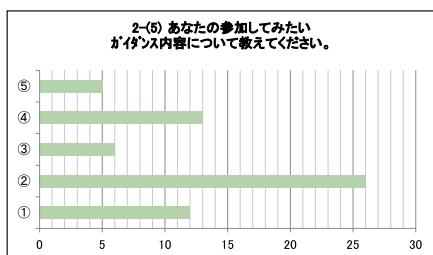
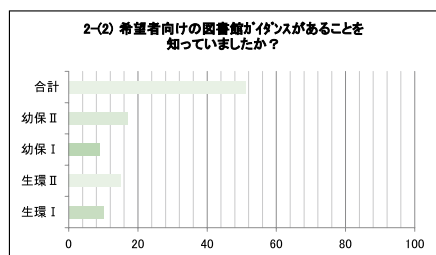
図書館アンケート結果報告

皆さんに協力していただいた図書館アンケートの結果がまとまりました。図書館ニュースの紙面を借り、ほんの一部ですが報告します。



- ④ その他
③ コピー機を利用した
② レポートなどの相談をした
① 本を借りた

利用理由の1位が本を借りるためだったのは喜ばしいことでしたが、蔵書内容に物足りなさを感じている人もいました。リクエスト制度も導入していますので、問い合わせてみてください。



- ⑤ その他
④ 著作権
③ 辞書・事典のひき方
② パソコン検索(調べもの)
① 蔵書検索

「どちらともいえない」という回答も目立っていました。「あまり図書館を利用していないから、どちらともいえない…」が本音の人もいたかもしれません。もっと気軽に図書館を利用してもらえるよう、これからも様々な取り組みをしていく予定です。

図書館ガイダンス報告

図書館ガイダンスⅠ・クラス別受講者数
実施時期：平成28年5月9日～5月31日

学 科	Ⅰ 回生		Ⅱ 回生		学科別
生活環境学科	1組	6	1組	19	26
	2組	1	2組	0	
幼児教育保育学科	1組	4	1組	0	4
	2組	0	2組	0	
合 計	Ⅰ 回生	11	Ⅱ 回生	19	30

図書館ガイダンスⅡ・クラス別受講者数
実施時期：平成28年11月7日～11月30日

学 科	Ⅰ 回生		Ⅱ 回生		学科別
生活環境学科	1組	13	1組	0	13
	2組	0	2組	0	
幼児教育保育学科	1組	15	1組	0	15
	2組	0	2組	0	
合 計	Ⅰ 回生	28	Ⅱ 回生	0	28

図書館では4月の新入生対象オリエンテーションでの図書館利用ガイダンスのほか、5月と11月に希望学生対象のガイダンスを実施しています。平成28年度のガイダンス参加者数は上記の通りでした。図書館アンケートの結果を踏まえ、今後も内容を充実させていく予定です。どんなガイダンスを受講したいか、皆さんからのリクエストもお待ちしています。カウンターへ気軽に声をかけてください。

<ガイダンス例>

- ① 図書館の本を探そう
- ② インターネットを使って情報収集してみよう
- ③ 相互貸借・文献複写について
- ④ 著作権について知っておこう！



- ・効果的な検索キーワードを見つけよう！
- ・実習先や就職先の情報、どうやって調べるの？
- ・雑誌論文を探してみよう！
- ・図書館に文献がなかったらどうするの？
- ・引用文献と参考文献、どこが違うの？



読書感想文 入選者と書名

- ★優秀作 幼児教育保育学科 1組22番 山田 功子 「窓ぎわのトットちゃん」
 ★佳作 生活環境学科 2組 9番 樋口 由美 「『ペコロスの母』に学ぶ ポケで幸せな生き方」



附属図書館公開講座参加者アンケート結果

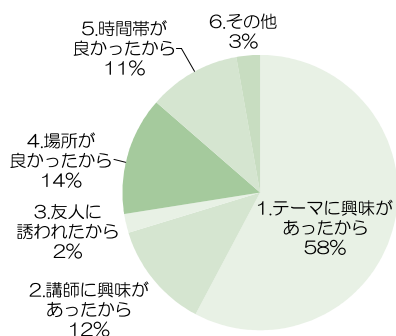
今年は我が国の歴史に深く関わる皇位継承問題を統一テーマにすえて、大化前代から武士勃興期までを対象に、4人の講師にリレー形式で講演していただきました。聴講者は西宮市民だけでなく、北は東京から南は岡山まで阪神間を越えた広範囲から集まりました。3回目を迎えることからリピーターの方も多く、参加者のアンケートからはわかりやすい内容だったと好評で、今後の継続を希望してくださる声も多く出ました。ここで改めてご協力をいただいた学院関係の方々に御礼を申し上げる共に、参加者の感想を抜粋してご紹介いたします。

8月27日(土) 講演統一テーマ『皇位継承と貴族・武士』・・・参加者152名(アンケート提出105名)

第1講・龍谷大学教授 平林章仁氏「継体天皇と大伴金村大連」 第2講・本学図書館長 木本好信特任教授「孝謙女帝と藤原仲麻呂」
 第3講・京都大学大学院教授 上島享氏「一条天皇と藤原道長」 第4講・古代学協会研究員 古藤真平氏「後白河天皇と平清盛」
 (※講演要旨は本誌2～3ページをご参照ください。)

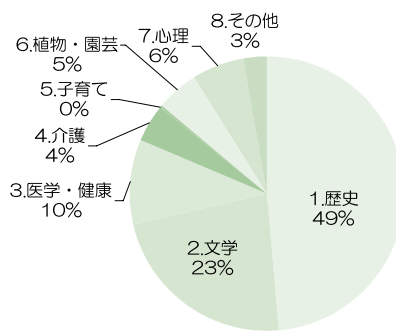
●講座に申し込まれた理由をお聞かせください。

『皇位継承と貴族・武士』



●今後どのような講座があれば、参加してみたいと思われますか？

『皇位継承と貴族・武士』



- ・時宜を得た企画で、大変興味深い内容であった。講師の先生方のお話も非常に上手であった。(男性)
- ・興味深いテーマを大変わかりやすく講義していただき、資料も充実していた。後々、自分で学ぶ時の手がかりとなります。(女性)
- ・統一テーマの元に、1つ1つの講演がコンパクトにまとまっていて、わかりやすかった。(男性)
- ・内容が濃く、認識、又、史実の見方をあらたにした。過去にも講座を受けたことがあるが、いつもおもしろい。現在問題になっている生前退位天皇制を考える上でもタイムリーである。(男性)
- ・古代、中世の歴史を背景として天皇のあり方、皇位継承について考えることができました。(男性)
- ・研究の最前線におられる先生方のお話を聴くことで、新たな認識となり、本では読みとれないことにふれていただき、ありがとうございます。これからも聴講させていただきたいと思います。(男性)
- ・皇位継承をめぐる、まさに人間ドラマが、どのように展開されたか、講師の熱弁に興味を持って拝聴しました。(男性)
- ・統一テーマで広い時代を見る、という試みは大変よかったと思います。新たな視点で、古代・中世史を見ることができました。(性別不明)

あ・と・が・き

大学図書館だけではなく、利用者の減少に歯止めがかかりません。本学図書館でも年度初めに新生入生へのガイダンス、前・後期にも個別対象のガイダンスを開いています。また新しく「パスファインダー」という利用案内を2種作成して利用の便をはかっています。疑問がけば図書館というのは昔のことで、現代の学生はまずスマホで検索です。スマホの利便性にまさる図書館の有効性がなかなかわからない。スマホで済むような学習じゃ困ります。

開学50周年を記念して始まった図書館公開講座、第3回の講座が8月27日に開講されました。いままでのアンケート結果の広い分野にわたっての講座をとのご意見を参考に、今年度は6世紀から12世紀までを対象に「皇位継承と貴族・武士」をテーマに4人の講師が登場いたしました。聴講者が150名を越えて盛況でしたが、1・2回目のリピーターが多く、その活動が定着してきたように感じます。開催にあたっての理事長・学長両先生をはじめ教職員のご尽力に感謝いたします。講演要旨は2・3頁に掲載していますのでご覧になってください。(館長・木本好信)



編集発行

甲子園短期大学図書館

〒663-8107 西宮市瓦林町4-25

TEL.0798 (65) 3300 / FAX.0798 (67) 9101